学　習　の　指　針（シラバス）

教科名	音楽	実施学年	3　年	週時数	1時間

1　学習の目標等

学習の目標	（1）歌詞の内容や曲想を理解し、音楽表現に生かしながら主体的に歌唱する。 （2）音楽の楽典（音符の長さ、種類、拍の特徴、音の高低、強弱、曲の形式）を生かし、音楽の表現に生かす （3）声や楽器の音色や響きの相違点を感じとり、良い音楽をできるように、技能を磨く （4）様々な音楽を聴き、曲の特徴やその背景となる文化・歴史・作曲の思いを感じ取り根拠をもって楽曲や演奏を評価できる （5）仲間とともに協働し、合唱や合奏を演奏する楽しさを味わい他者とのかかわりの中で必要なコミュニケーション能力を働かせる。
使用教科書 副教材等	ミュージックノート、ファイル、楽譜

2　学習計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価	備考
第1学期	4	・音楽の授業についての説明	・音楽室への移動、教室での使用の注意、持参する物、移動の注意事項、授業についてのマナーを身につける。	・音楽の授業について諸注意を良く聞いているか評価する	実際に楽器を見せる。
		・「校歌」 手拍子などを行い、リズムを覚える 階名唱を行い音の幅や音高を覚える	・歌詞の意味を理解し、リズムや音程を覚え歌唱する。 ・「校歌」を一人で歌える。 ・一人一人の声に耳を傾ける。 ・音程、リズムを身につけ、一生懸命に歌唱する。	授業中の歌唱 階名唱を正確に歌えているか	
	5	・楽譜の書き方を学ぶ 楽譜の書き方について学ぶ 写譜したものを提出	・五線の各部分の名称（第一線から第五線）までとト音記号の書き方（G の音を起点とする記号であること）を覚える ・小節線の書き方と終止線の書き方を覚える。 ・各音符の符幹の長さを正確に書くようにする。	授業中の態度 正確に写譜できているか	
		・校歌歌唱テスト	・各個人がどのくらい歌唱力を身につけたか確認し、今後の指導に生かす。 （歌詞、歌う姿勢、口形、声の出し方、リズム）		
	6	・声の芸術　オペラ「アイーダ」 魔王とオペラの違いを考える ストーリーについて学び登場人物の心情と表現の関わり合いについて感じ	・声の表現の幅広さを感じ取る ・オペラについて理解する ・登場人物の心情と表現の関わりについて理解し音楽的な良さを味わって聴く	授業中取り組み ワークシート	
	7				

		取る ・合唱曲 3部合唱を歌唱する 響きのある声を感じ、試行錯誤しながら技能を身につける。 ・歌唱テスト 1 人ずつ自分のパートを歌う	 ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、全体の響きを感じ取り、仲間とともに表現し歌唱する ・表現に必要な技能（発声、言葉の発音、体の使い方）を身につけて歌唱で表している。 ・各個人がどのくらい歌唱力を身につけたか確認し、今後の指導に生かす。 （歌詞、歌う姿勢、口形、声の出し方、リズム）	 正確な言葉、音程、リズムで歌えているか 歌唱の技能をどの程度身につけているか	
第2学期	9 10 11 12	・合唱曲 3部合唱を歌唱する 歌唱テスト 各パート数人でアンサンブルのテストを行う。 「勧進帳」鑑賞 ・オペラとの比較 ・物語などを学ぶ 合唱曲またはトーンチャイム ・トーンチャイム トーンチャイムについて学ぶ 音を割り振る 手拍子で練習する 裏拍や16分音符の練習をする トーンチャイムで練習する	・声部の重なりを感じ美しいハーモニーを作る。 ・歌詞の意味と旋律のかかわりをふまえふさわしい表現を主体的に考える。 ・指揮者・伴奏者・歌い手の三つの要素がそれぞれの役割を果たしバランスの取れた合唱を行う。 ・響きを感じながら歌唱しているか ・他パートと合わせながら歌唱しているか ・音楽・舞踊・演技が一体になった日本の伝統的な演劇に親しむ ・音楽表現の共通性や固有性などについて考える ・歌舞伎の良さや美しさを味わって聞くことができる。 ・階名、リズムを理解し、手拍子演奏をすることで、各個人の楽典能力を身につける。 ・全体を３つのグループに分け、リーダーを中心に練習ができるようにする。 ・全体の曲の流れを感じながら、自分の音を手拍子で演奏する。 ・テストの録音を聴き、抜けている音やリズム等の確認し、今後の練習につなげていく。 ・他のグループの演奏を主体的に聞き、良いところ、直す部分を聴きとることができるようにする。 ・自分のパートを正確に演奏することができているか	 合唱コンクールでの音楽と他の演奏の感想文を評価する。 授業中の様子、プリントの評価 正確な音程、言葉、リズムで演奏しているか 他パートと合わせて演奏しているか 実技テスト 授業中取り組み ワークシート等を評価	
第3学期	1 2 3	合唱曲または鑑賞「ブルタヴァ」 スメタナが描きたかったチェコの情景を理解する。 時代背景を学び、スメタナがなぜチェコを音楽で表現したのかを考える	・それぞれの表題を手掛かりにスメタナの描いた情景を感じる。 ・音楽の各要素の働きを理解し音楽的な良さを感じ取る ・時代背景を含めた曲の背景を理解し、作曲者の気持ちを考える	授業内の取り組みとワークシートで評価	

3　評価について

評価の観点及び内容・評価材料

観点	評価の観点及び内容	評価材料
知識・技能	・曲想の音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につける。	技能テスト、発表の時や授業での様子
思考･判断･表現	音楽の形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それぞれの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながら良さや美しさを味わって聴いたりしている。	友達の音楽や録音した音楽を聴き比べ、知覚･感受した内容とそれらの関わりについて考える状況を評価する。また音楽の特徴を理解したことを生かしながら、よさや美しさを味わって聴いている状況を評価する。
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的･協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	鑑賞：音楽の特徴や背景などと関連付けながら、自分の考えをプリントに書き鑑賞する内容を評価する。技能:録音した音楽の良いところ、直すことを聞き分け、主体的に練習する姿勢を評価する。良い音の響き、良い演奏を意欲的に聞き取り、演奏できるように取り組む姿勢を評価する。

☆印の項目は、授業に欠席した場合、評価に含めることができない場合があります。